

国連総会第69会期の際のG4
(日本、インド、ドイツ、ブラジル) 閣僚級会合
共同プレスステートメント (仮訳)

1. 2014年9月25日、第69回国連総会開会の際に、ブラジル外務大臣、ドイツ連邦外務大臣、インド外務大臣及び日本国外務大臣は、安保理改革に関する意見交換を行うため、ニューヨークで会合を開催した。

2. G4外相は、21世紀の地政学的な現実を反映した安保理の改革への継続的なコミットメントを強調した。G4外相は、安保理が現在の国際的な課題に効果的に対処することが困難になっていることが、安保理改革が喫緊の必要性を有するものであることを強く想起させることに合意した。安保理改革を通じて、安保理はより広範な代表性があり、効率的で透明性のあるものとなり、そのことを通じて更に安保理の効率性、正統性が高められ、決定の実施を更に強化させることとなる。

3. 国連創設から70年後、過去の唯一の安保理の改革から50年後、ミレニアムサミットからほぼ15年後、そして世界各国首脳が一致して早期の安保理改革を呼びかけた2005年の世界首脳会合から10年を経たが、安保理改革に関する議論が依然として膠着状態にあることへの懸念をG4外相は、表明した。G4外相は、安保理改革を実現するプロセスが、終わりの無い試みと見なされるべきではないことを強調した。したがって、G4外相は、すべての外相に対し、国連創設70周年を、20年以上にわたり難航しているプロセスに関して、ついに具体的な成果を達成し、各国の元首及び政府首脳から与えられたマンデートを2015年9月までに果たすためになしうる全ての努力を払うための機会として活用するよう勧めた。

4. G4諸国は、安全保障理事会の新たな常任理事国を目指すとのコミットメント、及び各国が新常任理事国候補国として互いに支持し合うことを改めて表明した。また、G4各国は、拡大された理事会においてアフリカを含む途上国が常任及び非常任の双方のカテゴリーにおいて代表されることが重要であるとの考えを再確認した。

5. G4外相は、常任、非常任双方のカテゴリーで拡大され安保理のモデルにつき議論するため、改革推進派の加盟国に更に働きかける旨強調した。この文脈で、G4外相は、安保理改革に関して多様な見方を持つ他の国連加盟国の出席を得て2014年7月にアウトリーチ会合を主催した日本のイニシアティブを賞賛した。G4外相は、安保理改革に関する議論につき、市民社会、メディア及び有識者の更なる関与の必要性を認識するとともに、安保理改革の緊急性についての議論を広げるためにブラジル、インド及び日本がそれぞれ主催したセミナーを想起した。

6. また、G4外相は安保理改革に関する政府間交渉第10ラウンドの結果についても議論を行った。G4外相は、ジョン・アッシュ国連総会第68会期総会議長（注：アンティグア・バーブーダ常駐代表）が果たした交渉に向けて前向きなモメンタムを創出した重要な役割、特にアドバイザリー・グループの立ち上げによる総会決議62/557に含まれる5つの重要事項のそれぞれについての加盟国の主な立場に関する明確な要約であるノン・ペーパーの作成を評価した。また、G4外相は、政府間交渉議長であるタニン大使（注：アフガニスタン常駐代表）による7月9日付けの（注：政府間交渉の）評価を歓迎するとともに、第70会期国連総会の一般討論演説の際のハイレベルイベントの開催及びいよいよテキストに基づく交渉を開始する必要があるとの同大使の提案を、関心をもって受け止めた。

7. G4外相は、喫緊の安保理改革を実現するためにサム・カハンバ・クテサ第69会期国連総会議長と緊密に連携することへの期待を表明した。

ルイス・フィゲレイド
ブラジル外務大臣

フランク＝ヴァルター・シュタインマイヤー
ドイツ連邦外務大臣

スシュマ・スワラージ
インド外務大臣

岸田文雄
日本国外務大臣

（了）